

財団法人新潟県都市緑花センター 平成20年度事業計画

1 センター事業会計事業計画

財団法人新潟県都市緑花センターの基本財産の運用益等により、「緑豊かなまちづくりに向けた緑花の推進」「ISO 環境マネジメントシステムの推進」「県民とともに公園を育てる」をキーワードとして事業を行うもの。

(1) 都市緑化における調査及び研究事業

① 芝生地の管理に関する調査研究(新規)

新潟の地域特性にあった芝生地の管理手法を確立しコスト削減を図るため、鳥取県で実践されているローコスト芝生地造成管理の手法を試験的に導入し、調査研究を行います。

試験地 : 紫雲寺記念公園 650 m²、県立植物園 350 m²

② 公園利用調査及び都市緑花に関するニーズ調査(継続)

利用者ニーズを踏まえた公園管理の推進と、都市緑化等に関する多様な県民ニーズを把握するため、調査における目的の明確化、項目設定、計画的な実施、結果の分析、活用方法を整理した上でアンケート調査を継続します。

調査方法 : インターネットリサーチにより 10~15 問、300 モニター程度

③ ISO14001 環境マネジメントシステムの更新及び認証範囲拡大(継続、一部新規)

平成 19 年 12 月に認証更新した環境マネジメントシステムの更なる発展に向けた取り組みを行うと共に、スポーツ公園指定管理者として、スタジアム事務室をサイトとして追加することとし、認証範囲の拡大を図ります。

④ 各種マニュアル類の整備(継続)

公園利用者への迅速な対応を可能とするため「苦情・要望対応マニュアル」や「遺失物管理マニュアル」等の作成及び過去に作成した各種マニュアル類について所要の見直しを行います。

(2) 都市緑化に関する普及及び啓発事業

① 花と緑のアドバイザー派遣制度(継続)

花と緑のアドバイザーを各種開催団体が実施する緑化講演会、緑化学習会等に派遣するとともに、センターが企画する自然観察会等においても積極的に活用します。また、情報交換や相互の技術向上を図るため交流会を開催します。なお、平成20年度にて第3期アドバイザー任期満了に伴う更新を行います。

② 広報活動の充実(継続)

都市緑化の意義や当センターの活動状況等、情報を広く県民に提供するため、情報誌（Green sketch）とホームページの充実を図る。ホームページは、平成19年度にリニューアルを行った内容について更に充実を図ります。

③ 写真コンテストの開催（継続）

まちの中の緑や花を増やし、守り育てる意識を高めるため、都市公園の魅力、まちなかの緑の効用など、写真を通して都市緑化の普及啓発を図るためのコンテストを開催します。

④ 公園サポーター事業の運営（継続）

当センターが管理する公園に、多くの県民に継続的に関わってもらい、ともに公園を育て、愛着や親しみを持ってもらうため、花壇維持管理や清掃、観察会などを開催することにより、魅力探し、魅力づくりの活動を実施します。

⑤ 標語コンクールの開催（新規）

県民に親しまれ愛される公園とするため、利用者が感じること、感じていることを標語として広く募集し、広報に活用します。

（3）都市緑化に関する保全及び推進事業

① 花と緑のパートナーづくり事業(継続)

緑豊かな潤いあるまちづくりを推進するため、ボランティア団体、企業、民間団体や学校等が実施する緑化活動に対して助成します。

② 樹木保全事業（新規）

地域で愛されている樹木や、シンボルとなっている樹木について、センターが独自に行う樹木調査の結果から得られる保全、更新の手法をまとめ、広く周知し、技術的なサポートと、保全意識の啓蒙を図ります。

平成20年度調査対象：大潟水と森公園老桜、スポーツ公園隣接湖畔桜

2 鳥屋野潟公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立鳥屋野潟公園（新潟県スポーツ公園）の管理・運営をアルビレックス新潟・都市緑花センターグループとして行うもの。

(1) 事業の概要

| 都市公園名 | 所在地 | 管理施設 | H20予算額 | H19当初予算額 | 増減 | 対前年比 |
|----------------|----------|------------|---------|----------|---------|--------|
| | | | (A) | (B) | (A-B) | |
| 鳥屋野潟公園（スポーツ公園） | 新潟市清五郎地内 | 東北電力ビッグスワン | 334,502 | 347,323 | ▲12,821 | 96.3% |
| | | スタジアム | 20,995 | 20,995 | 0 | 100% |
| | | 園地 | 178,208 | 175,943 | 2,265 | 101.3% |

(2) 事業計画

① 東北電力ビッグスワンスタジアム

ア) 管理運営の基本方針

スタジアムを次のとおり位置づけ、県民の多様なニーズに応え、親しみやすく広く開かれた運営を行います。

- a) 県内スポーツの殿堂
- b) 文化イベントの舞台
- c) 地域活性化の拠点

イ) 利用計画

- a) サッカー
 - ・ Jリーグ・ヤマザキナビスコ杯・なでしこリーグ、天皇杯、国際ユースサッカー決勝等、全国社会人サッカー決勝等、県高校サッカー決勝、少年サッカー大会
- b) ラグビー
 - ・ アジア5カ国対抗戦（日本代表戦）、県高校ラグビー決勝
- c) 陸上競技
 - ・ 全日本中学校陸上、県小学生陸上、県中学校通信陸上、県中学校総体、県高校総体、北陸陸上選手権、県ビッグ陸上フェスタ、県障害者スポーツ大会等
- d) その他
 - ・ 県レクリエーション大会、30人31脚大会等

ウ) 自主事業

a) スポーツ公園フェスタ

(昨年の実施概要)

- ・ サッカー、ラグビー、陸上、水泳の各トーク・スポーツ教室、少年ラグビービッグスワンカップ、ミニサッカー大会、女子フットサル大会、健康・スポーツ市民講座、

ヘルシー料理教室、体験教室等

b) 新春フェスタ

- ・トラック無料開放、餅つき大会、キャラクターショー、バックヤードツアー等

c) 都市緑花フェア

- ・少年サッカー大会、遊具施設、バックヤードツアー

② スポーツ公園園地

ア) 管理運営の基本方針

- a) 国体成功、スポーツの拠点
- b) 公園の魅力を発信
- c) 自然とふれあう公園
- d) 地域・住民と共に公園を育てる
- e) 安全安心な公園

イ) 主要実施項目

a) 国体成功、スポーツの拠点としての取り組み

- ・多目的運動広場において強い芝生を作るため、養生シート敷設や専任スタッフでの芝刈り、施肥の回数増等きめ細かい管理により、利用者に良好な芝生環境を提供します。
- ・国体開催に向け、関係団体と連携を図り、強化練習場への対応など積極的に協力をを行います。

b) 公園の魅力を発信する取り組み

- ・公園内で、カナルコンサートや、スポーツ公園フェスタ等を開催します。
- ・リーフレットを作成するなど、開花情報やイベント情報等旬の情報を利用者に提供すると共に、積極的にマスメディア等に提供します。

c) 自然とふれあう公園の取り組み

- ・スタジアム南側の樹木やカナルのイチョウなど、植栽の一部に生育不良が見られるため、施肥や空気注入など土壌環境の改善等で樹勢の回復を図ります。
- ・次世代を担う子供たちに自然・緑の大切さを学ぶ「観察会」等のイベントを開催すると共に、学校等への情報提供も行います。

d) 地域・住民と共に公園を育てる取り組み

- ・「ながたの森を愛する会」ほか、公園サポーターと協働で花壇管理等を行います。
 - “ながたの森”の花壇植え付け・除草・樹木の間伐
 - カナル花壇の植え付け
 - “ながたの森”のホタルの里づくり など
- ・地元商工会との連携によりイベントを開催します。
 - 「にいがたカナル彩 春」 など

e) 安全安心な大規模都市公園の取り組み

- ・「公園清掃」や「犬のマナー講習」等のイベントによる意識啓発を行います。併せて、保健所との合同パトロールや早朝・夕方の巡回パトロール等により指導を行います。
- ・夜間の防犯対策として、週末の駐車場夜間閉鎖の継続及び、器物損壊の見られる夏休み等に夜間巡回を行います。また、警察署や消防署等にも協力依頼する他、マスメディアに働きかけ報道での抑止を図ります。
- ・「ながたの森を愛する会」より協力してもらい、巡回等マナー啓発の一翼を担っていただきます。

3 紫雲寺記念公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立紫雲寺記念公園の管理運営を当センターが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

| 都市公園名 | 所在地 | 管理面積 | H20 予算額 | H19 当初予算額 | 増減 | 対前年比 |
|---------|-----------|-----------------------------|----------------------|----------------------|----------------|--------------------|
| | | | (A) | (B) | (A - B) | |
| 紫雲寺記念公園 | 新発田市藤塚浜地内 | 72.7ha (内H20 供用面積 1.7ha) | 145,912 (102,477) | 144,253 (101,554) | 1,659 (923) | 101.2% (100.9%) |

※下段（ ）は新発田市委託分（屋内運動施設管理費 平成19年度 42,699千円 平成20年度 43,435千円）を除く

(2) 事業計画

① 管理運営の基本方針 ～通年観光公園を目指して～

- ア) “おもてなしの心” でサービスを提供
- イ) 安全・安心な利用に向けて
- ウ) 周辺の自然環境との調和
- エ) 健康増進のために
- オ) 地域の人たちとともに
- カ) 一体感のある活用に向けて
- キ) 地域の活性化に向けて

② 主要実施項目

- ア) “おもてなしの心” でサービスを提供
 - ・各種施設の利用者の立場に立ったサービスを提供するため、職員の接遇面を向上させる教育を安全衛生ミーティングで年2回行います。
- イ) 安全・安心な利用に向けて
 - ・毎日2回行うパトロール及び月1回の重点パトロールで設備や植栽の生育状況、遊具等の目視点検を行い、安全を確認する。遊具は、年1回定期点検を行います。
 - ・病虫害防除の薬剤散布は、早期発見に努めて必要最小限のスポット散布を行います。
- ウ) 周辺の自然環境との調和
 - ・美しい自然景観を形作っている松林を保全するために、松くい虫予防のための樹幹注入（マツ約300本分）や年2回の下草刈り、被害拡大を防ぐための伐倒処理（発生状況により春と秋～冬の年2回）を行います。
- エ) 健康増進のために

- ・新発田市が温泉施設「紫雲の郷」で実施している「健康づくり大学」を支援します。
- ・プールや体育館を利用した健康教室を行います。

オ) 地域の人たちとともに

- ・花壇に花苗の植え付けやチューリップ植え付けなどの花壇管理を地元ボランティア団体「花ふやし隊」の隊員や住民と協働で行っています。

今後、年間を通して公園をともに育てる公園サポーター制度に発展させます。

カ) 一体感のある活用に向けて

- ・温泉施設「紫雲の郷」や愛鳥センター等の園内施設及び周辺地域との連携を強化します。
- ・連絡調整会議の場を年2回以上設定して連携を蜜にし、一体となった利用促進や地域の活性化に努めます。

キ) 地域の活性化に向けて

- ・公園内で開催される各種イベントを支援して地域の活性化に努めます。
- ・地元商工会が主催するイベント「しばた食のふれあいフェスタ」等に参加します。

4 大潟水と森公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立大潟水と森公園の管理・運営を当センターが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

| 都市公園名 | 所在地 | 管理面積 | H20 予算額 | H19 現計予算額 | 増 減 | 対前年度 比 |
|---------|----------------|--------|---------|-----------|-------|-----------|
| | | | (A) | (B) | (A－B) | |
| 大潟水と森公園 | 上越市大潟区 潟町地内 | 30.9ha | 28,813 | 28,638 | 175 | 100.6% |

(2) 事業計画

① 管理運営の基本方針 ～自然体験と歴史のふれあい公園～

- ア) 貴重な自然を次世代へ
- イ) 「潟」に自然を学ぶ
- ウ) 誰もが潤いを感じる公園
- エ) 地域の皆さんと共に
- オ) 地域の魅力度を高める

② 主要実施項目

- ア) 貴重な自然を次世代へ
 - ・新潟県立植物園と協力し、園内に自生するクロホシクサやキンラン等の絶滅危惧植物の保全のために、種子保存等を行います。
 - ・自生種が多く残る林地における自生植物を考慮に入れた詳細な管理レベル設定による林地管理を行います。
- イ) 「潟」に自然を学ぶ
 - ・潟の自然を学ぶことのできる野鳥や植物、キノコ等の観察会を4回行います。
 - ・公園をセルフガイドで散策しながら楽しめるプログラムを作成します。
- ウ) 誰もが潤いを感じる公園
 - ・植物解説板設置、野鳥情報配布を行います。
 - ・危険箇所警告サインや危険動植物警告サインを設置します。
- エ) 地域の皆さんと共に
 - ・地域のボランティア団体(大潟区森林ボランティア、大潟水と森公園ファンクラブ等)と協働での下草刈を年2回、魅力探し、外来植物駆除活動を年8回行います。
 - ・地元有識者、地域の方々を含めたよりよい公園に育てるための意見交換会を行います。
- オ) 地域の魅力度を高める

- ・頸城区の大池いこいの森ビジターセンターと連携した公園スタンプラリーを行います。
- ・大潟水と森公園ファンクラブや周辺施設と連携した地域・公園の情報収集と、その情報の休憩棟や掲示板への提示を行います。

5 植物園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立植物園の管理・運営を当センターが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

| 都市公園名 | 所在地 | 管理面積 | H20 | H19 | 増減 | 対前年度比 |
|-------|----------------|--------|---------|---------|--------|-------|
| | | | 予算額 | 予算額 | | |
| | | | (A) | (B) | (A-B) | |
| 県立植物園 | 新潟市秋葉区 金津地内 | 19.8ha | 273,775 | 275,900 | ▲2,125 | 99.2% |

(2) 事業計画

① 管理運営の基本方針

県立植物園が目指す植物園像

- ア) 四季を通じて楽しめる魅力的な植物園づくり
- イ) 貴重な植物・自然の保全及び自然環境教育の場としての植物園づくり
- ウ) 植物に関する情報発信、啓発活動の拠点としての植物園づくり
- エ) 次世代を担う青少年の活動拠点としての植物園づくり
- オ) 世界に通用する植物園づくり
- カ) まちづくりと地域振興の拠点としての植物園づくり

② 主要実施項目

- ア) 四季を通じて楽しめる魅力的な植物園づくり
 - 園地の植栽を利用したチューリップまつり（4～5月）、ボタンまつり（5月）の開催、エントランス花壇の草花植栽、新潟県を代表するスイセンやツバキ、シャクナゲの等の植栽（園地・温室）
- イ) 貴重な植物・自然の保全及び自然環境教育の場としての植物園づくり
 - 保全に関する研究・保全活動への技術協力、講習会、展示等の開催
 - 保全に関する研究の継続、保全活動への技術協力（オキナグサ、ミズオアイ、ヒメサユリ等）、植物園の日（5月4日）講演会、絶滅危惧植物展示等の開催、子供向け植物教室の開催、雪割草展示会の開催
- ウ) 植物に関する情報発信、啓発活動の拠点としての植物園づくり
 - 植物園だよりの発行、ホームページのリニューアル、花と緑の教室の開催、花と緑の相談所の開設、ipodによる植物展示解説、開花情報掲示板の設置
- エ) 次世代を担う青少年の活動拠点としての植物園づくり

小学校を中心とした教育プログラムの開発と学校への呼びかけ、大学インターンシップ、学芸員実習の受け入れ、子供向け植物教室の開催

オ) 世界に通用する植物園づくり

植物多様性保全拠点園ネットワーク（日本植物園協会）への参加、環境省生息域外保全への協力、海外植物園との調査保全協力、オランダ・ライデン大学附属植物園寄贈植物の植栽、種子・植物交換実施、研究成果の公表

カ) まちづくりと地域振興の拠点としての植物園づくり

企画展示や園内植栽を通じた各種団体との協力、地域団体との共同による花壇づくり、研究機関や大学への研究協力

③ その他

12月1日に10周年を迎えることから、今年度は園地を一層充実させるためのエントランス花壇への植栽や記念フェスティバル等を行います。

6 収益事業会計事業計画

(1) 請負業務

| 施設名 | 施工地 | 予算額(千円) |
|----------------|------------|---------|
| 南側駐車場管理 | 新潟市中央区長潟地内 | 450 |
| 新潟県都市緑花フェア開催委託 | 新潟市中央区長潟地内 | 700 |
| 植物園10周年記念事業 | 新潟市秋葉区金津地内 | 300 |
| 合計 | | 1,450 |

(2) 寄付行為第4条(5)に基づく、物品販売事業等の収益事業

| 公園名 | 事業内容 |
|---------|--------------------------------------------------------------------|
| 鳥屋野潟公園 | ① レストランの営業 ② 自動販売機事業 11台 ③ 売店事業 ④ 公衆電話事業 2台 |
| 紫雲寺記念公園 | ① バーベキュー卓利用管理事業 7卓 ② 炊事棟「釜」管理事業 4口 ③ 自動販売機事業 5台 ④ 食堂・売店事業 |
| 植物園 | ① カフェテリアの営業 ② 売店事業 ③ 自動販売機事業 2台 ④ 公衆電話事業 2台 |
| 大潟水と森公園 | ① 炊事棟「釜」管理事業 10口 ② 自動販売機事業 3台 |
| その他 | ① 図書の販売 「里山の植物」の販売 「ようこそ緑の夢王国」の販売 |

(3) 指定管理公園内の緑花センター自主イベント開催

自主イベント開催時の物品販売等にかかる事業

| 公園名 | 事業内容 |
|-----|--------------------------------------------------------|
| 植物園 | ① 「植物園の日」(みどりの日) イベント開催(5月3・4日) ② 秋の植物園まつり(10月4・5日) |

7 全国都市緑化にいがたフェア記念特別会計事業計画

「第15回全国都市緑化フェア」実行委員会より寄付された浄財で行なう事業

(1) フェアイベント等開催費（予算額：7,290千円）

新潟県が主催、後援するもの及び緑化推進団体が開催する都市緑花イベントを通して、緑花意識の普及・啓発に努めます。

- ・ 春の都市緑花フェア：新潟県スポーツ公園（新潟市）平成20年4月26、27日
- ・ 秋の都市緑化月間イベント：新潟県立植物園 平成20年10月4、5日
- ・ 海づくり 港・花フェスタ：朱鷺メッセ周辺 平成20年5月中旬
- ・ フラワーウェーブ新潟：新潟ふるさと村（新潟市）平成21年3月（予定）
- ・ 緑の百年物語フェスティバル：新潟市内 平成20年10月(予定)